



園長便りひがし

令和8年8月7日
宮崎ひがし幼稚園
文責園長 花宮 伸利

お泊り保育・スポーツカーニバル

先生7月24日と25日に年長さんはお泊り保育を行いました。午前中は幼稚園でスイカ割を行い、午後は科学技術館、川遊びそして自然休養村センターに泊まりました。天気にも恵まれ、川遊びではエビや魚を捕まえて大喜びでした。大きな部屋にみんなで寝ることはめったにないのでいい経験になったと思います。

7月28日にはスポーツカーニバルが行われ、昭和学園の年長さんが一堂に集まり、運動会を行いました。木花ドームは広くて走る距離も長かったのですが、どの子も一生懸命に走っていました。保護者の方の応援もありありがとうございました。

「ありがとう」の講演から

600名の生徒、先生、保護者のみなさんに、一つの質問をしました。『ありがとう』の反対語は何か知っていますか？これは、12、3歳の子どもには難し過ぎる質問だろうと思いました。ところが、パッと手を挙げた男の子がいたのです。びっくりして、椅子の隙間を縫って駆け寄りマイクを向けました。その子は、真面目な顔つきで答えてくれました。『当たり前』です！」「正解です！！」思わず握手を求めています。「人は、『当たり前』だと思っていると、感謝しなくなります。いいですか？みなさん、ここまで、どうやって登校しましたか？そうです。歩いて来ましたね。ということは、足があるということです。息をしますか？息をしないと死んでしまいます。目は見えますか？耳は聞こえますか？それは『当たり前』だと思いませんか？いいえ、『当たり前』ではないんです。世の中には、目の不自由な人もいます。足の不自由に人もいます。今、こうして生きていることも『当たり前』ではないんです。現在、各地でコロナが流行り、何人も人が亡くなっています。誰が、自分が死ぬなんて想像したことでしょう。いいですか？『当たり前』ではないんです。生きていること、目が見えること、歩けること。そうそう、家に帰れば、お父さん、お母さん、おじいさん、・・・と家族がいますね。それも『当たり前』ではないんです。だから！だから！『当たり前』だと思っていることに感謝しましょう。『当たり前』だと思っていると、「ありがとう」が言えません。「人が『何してくれた』ときに『ありがとう』というのは、当たり前です。「ありがとう」には、次のステップがあるのです。何でもないと思っていること。普通の事。当たり前のことに気付いて、『ありがとう』と言うのです。すると、幸せになれるのです。今日、家に帰ったら、お父さんでも、お母さんでもいい、『ありがとう』って言うてみてください。できたら、その理由を付け加えてください。『いつもご飯を作ってくれてありがとう』、『休みの日に遊んでくれてありがとう』とか。きっと、急に何を言い出すんだと、キョトンとして奇妙に思われるかもしれませんが。でも、ひょっとしたら、お父さんやお母さんは泣いちゃうかもしれません。

とにもかくにも、今日まで生きて来られたこと。それだけで十分。ああ、歩いてよかった。ご飯が食べられてよかった。目が見えてよかった。何より、生きていて良かった！コロナのせいで様々な規制が起きて、たくさん不平不満もありましたね。「不平不満」を言い換えれば「感謝が足りない」「当たり前のことに感謝できていない」ということです。みんなで、当たり前のことに『ありがとう』の気持ちをもって生活していきましょう。

